

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成24年4月1日
(第39期) 至 平成25年3月31日

株式会社 星医療酸器

(E03330)

第39期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

有 価 証 券 報 告 書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社 星医療酸器

目 次

頁

第39期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	8
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【業績等の概要】	10
2 【生産、受注及び販売の状況】	12
3 【対処すべき課題】	13
4 【事業等のリスク】	14
5 【経営上の重要な契約等】	14
6 【研究開発活動】	14
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	15
第3 【設備の状況】	17
1 【設備投資等の概要】	17
2 【主要な設備の状況】	18
3 【設備の新設、除却等の計画】	18
第4 【提出会社の状況】	19
1 【株式等の状況】	19
2 【自己株式の取得等の状況】	22
3 【配当政策】	23
4 【株価の推移】	23
5 【役員の状況】	24
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	28
第5 【経理の状況】	34
1 【連結財務諸表等】	35
2 【財務諸表等】	67
第6 【提出会社の株式事務の概要】	89
第7 【提出会社の参考情報】	90
1 【提出会社の親会社等の情報】	90
2 【その他の参考情報】	90
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	91

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【事業年度】	第39期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
【会社名】	株式会社星医療酸器
【英訳名】	HOSHI IRYO-SANKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 星 幸 男
【本店の所在の場所】	東京都足立区入谷七丁目11番18号
【電話番号】	(03)3899-2101(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼財務部長・IR担当 岡 田 利 夫
【最寄りの連絡場所】	東京都足立区入谷七丁目11番18号
【電話番号】	(03)3899-2101(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長兼財務部長・IR担当 岡 田 利 夫
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号) 株式会社星医療酸器神奈川事業所 (神奈川県綾瀬市早川字上原2647番地27) 株式会社星医療酸器千葉支店 (千葉県千葉市稲毛区山王町305番地10) 株式会社星医療酸器埼玉営業所 (埼玉県北本市荒井四丁目151) 株式会社星医療酸器名古屋支店 (愛知県小牧市大字舟津1298番地) 株式会社星医療酸器大阪営業所 (大阪府交野市私部西五丁目32番25号) 株式会社星医療酸器尼崎営業所 (兵庫県尼崎市東難波町二丁目1番5号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 最近 5 連結会計年度に係わる主要な経営指標等の推移

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	8, 199, 329	7, 928, 354	8, 227, 679	8, 642, 419	8, 886, 072
経常利益 (千円)	1, 295, 747	1, 062, 517	1, 118, 189	1, 135, 712	1, 150, 083
当期純利益 (千円)	766, 942	679, 245	782, 076	665, 039	691, 362
包括利益 (千円)	—	—	749, 509	666, 054	713, 351
純資産額 (千円)	6, 530, 288	6, 832, 298	7, 448, 748	7, 981, 649	8, 519, 685
総資産額 (千円)	9, 257, 953	9, 607, 763	10, 800, 141	11, 895, 602	12, 037, 347
1 株当たり純資産額 (円)	1, 832. 85	2, 010. 94	2, 195. 07	2, 352. 84	2, 528. 24
1 株当たり当期純利益 (円)	217. 87	201. 29	235. 29	200. 08	209. 11
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	69. 0	69. 6	67. 6	65. 7	69. 4
自己資本利益率 (%)	12. 5	10. 4	11. 2	8. 8	8. 5
株価収益率 (倍)	7. 7	9. 3	8. 6	10. 9	11. 8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	925, 671	1, 164, 923	1, 034, 246	1, 599, 433	1, 075, 996
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1, 055, 026	794, 273	△292, 814	△282, 764	△258, 109
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△290, 245	△544, 282	108, 722	△556, 139	△589, 078
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	2, 388, 742	3, 803, 657	4, 653, 811	5, 414, 341	5, 643, 150
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	312 (46)	322 (50)	328 (55)	330 (60)	342 (83)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
3 第35期の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 第36期、第37期、第38期及び、第39期の潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の最近 5 事業年度に係る主要な経営指標等の推移

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	6,936,602	6,690,856	6,973,439	7,312,259	7,168,737
経常利益 (千円)	1,041,486	861,464	926,583	888,590	891,099
当期純利益 (千円)	621,810	544,579	618,487	520,125	534,208
資本金 (千円)	436,180	436,180	436,180	436,180	436,180
発行済株式総数 (株)	3,601,681	3,601,681	3,601,681	3,601,681	3,601,681
純資産額 (千円)	5,614,651	5,773,118	6,224,832	6,605,551	6,980,794
総資産額 (千円)	8,624,235	8,544,725	9,594,705	10,438,921	10,392,081
1株当たり純資産額 (円)	1,611.59	1,736.84	1,872.77	1,987.37	2,113.03
1株当たり配当額 (円)	40.00	40.00	40.00	40.00	40.00
(内、1株当たり 中間配当額) (円)	(20.00)	(20.00)	(20.00)	(20.00)	(20.00)
1株当たり当期純利益 (円)	176.64	161.39	186.07	156.48	161.57
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	65.1	67.6	64.9	63.3	67.2
自己資本利益率 (%)	11.4	9.6	10.3	8.1	7.9
株価収益率 (倍)	9.5	11.6	10.9	13.9	15.2
配当性向 (%)	22.6	24.8	21.5	25.6	24.8
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	181 (31)	186 (34)	209 (38)	208 (43)	217 (65)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 従業員数は、就業人員数を表示しております。
3 第35期の潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4 第36期、第37期、第38期及び、第39期の潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	沿革
昭和49年 4 月	東京都北区に、株式会社星医療酸器(資本金5,000千円)を設立。
昭和51年 9 月	千葉県千葉市に千葉支店を開設。
昭和54年 1 月	一般建設業(管工事業)許可を取得し、病院等の医療用ガス配管設備工事メンテナンス等を開始。
昭和55年 1 月	群馬県伊勢崎市に北関東事業所を開設。
昭和55年11月	神奈川県海老名市に神奈川事業所を開設。
昭和59年 9 月	茨城県東茨城郡美野里町に茨城事業所を開設。
昭和60年10月	神奈川県川崎市に京浜営業所を開設。
昭和63年 9 月	東京都足立区に東京事業所を開設。同所に当社最初の酸素充填工場を新設。
昭和63年 9 月	本社を東京都足立区に移転。
平成元年11月	東京都足立区に株式会社エイ・エム・シー(連結子会社)を資本金10,000千円をもって設立。
平成 5 年 1 月	栃木県宇都宮市に宇都宮営業所を開設。
平成 5 年 4 月	千葉県千葉市に株式会社星エンジニアリング(連結子会社)を資本金10,000千円をもって設立。
平成 5 年 6 月	茨城県東茨城郡美野里町に株式会社アイ・エム・シー(連結子会社)を資本金25,000千円をもって設立。
平成 5 年 8 月	群馬県伊勢崎市に星友商事有限会社(連結子会社)を資本金10,000千円をもって設立。
平成 6 年 5 月	福島県郡山市に郡山営業所を開設。
平成 7 年11月	東京都府中市に西東京営業所を開設。
平成 7 年12月	神奈川県綾瀬市に株式会社ケイ・エム・シー(連結子会社)を資本金10,000千円をもって設立。
平成 8 年 4 月	本社を東京都北区赤羽二丁目に移転。
平成 8 年 6 月	埼玉県桶川市に埼玉営業所を開設。
平成10年 1 月	東京都品川区西五反田に南東京営業所を開設。
平成10年 7 月	登記上の本店を東京都北区岩淵町から東京都北区赤羽二丁目に移転。
平成10年10月	神奈川県横浜市に横浜営業所を開設。
平成11年10月	宮城県仙台市に東北営業所(現東北事業所)を開設。
平成12年 2 月	社団法人日本証券業協会に株式を店頭登録。
平成12年 5 月	埼玉営業所を埼玉県桶川市から埼玉県北本市に移転。
平成12年11月	静岡県静岡市に静岡営業所を開設。
平成13年 8 月	本社を東京都足立区入谷七丁目に移転。
平成14年 1 月	静岡県田方郡函南町に沼津営業所を開設。
平成14年10月	兵庫県尼崎市に大阪支店(現尼崎営業所)を開設。
平成14年10月	福岡県福岡市に福岡支店を開設。
平成14年10月	北海道札幌市に札幌営業所を開設。
平成14年10月	茨城県水戸市の有限会社大興医療酸器(連結子会社)を買収。
平成15年 3 月	沼津営業所を静岡県田方郡函南町から静岡県裾野市に移転。
平成15年 7 月	株式会社ファルコライフサイエンスより在宅酸素事業を譲受け。
平成15年 7 月	大阪府枚方市に大阪営業所を開設。
平成15年 7 月	愛知県名古屋市の名古屋営業所を開設。
平成15年 9 月	株式会社星医療酸器関西(連結子会社)を資本金80,000千円をもって設立。
平成15年 9 月	株式会社星医療酸器東海(連結子会社)を資本金30,000千円をもって設立。
平成15年10月	名古屋営業所を愛知県名古屋市から愛知県海部郡に移転。
平成15年12月	長野県松本市に長野営業所を開設。
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成16年12月	大阪営業所及び株式会社星医療酸器関西(連結子会社)本社を大阪府枚方市から同交野市に移転。
平成17年 1 月	東京都足立区に株式会社星コーポレーション(連結子会社)を資本金30,000千円をもって設立。
平成17年 3 月	シミズメディカルケア株式会社より在宅酸素事業を譲受け。
平成17年 4 月	宇都宮営業所を栃木事業所に名称変更し、栃木県宇都宮市から栃木県鹿沼市に移転。
平成17年 9 月	千葉県流山市に松戸営業所を開設。
平成17年10月	星友商事有限会社(連結子会社)を有限会社メディカルキャストに商号変更し、SPD業務の取扱いを開始。
平成17年12月	株式会社星コーポレーション(連結子会社)が、有料老人ホーム「ライフステージ阿佐ヶ谷」の運営を開始。
平成18年12月	東和医療器株式会社より看護学校向け商品の販売を行う看護学校事業を譲受け。
平成19年12月	山梨県中巨摩郡に甲府事業所を開設。
平成20年 3 月	株式会社星コーポレーション(連結子会社)が有限会社メディカルキャスト(連結子会社)を吸収合併。
平成20年10月	茨城県水戸市の有限会社大興医療酸器(連結子会社)を吸収合併し、同所に水戸営業所を開設。
平成21年 2 月	鹿児島県鹿児島市に鹿児島営業所を開設。
平成22年 4 月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場。
平成22年 7 月	名古屋営業所を名古屋支店に名称変更し、愛知県海部郡から愛知県小牧市に移転。
平成22年10月	株式会社星コーポレーション(連結子会社)を吸収合併。
平成22年10月	大阪証券取引所へラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。
平成24年12月	通所介護施設「あしつよ・文京」を開設。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社（株式会社星医療酸器）、連結子会社6社及び非連結子会社1社で構成されており、事業における位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

（医療用ガス関連事業）

当部門は、当社、㈱星医療酸器関西及び㈱星医療酸器東海が、医療用ガス及び医療用ガス関連商品の企画・販売を行い、医療用ガスの製造は、各地域製造子会社である㈱エイ・エム・シー（東京都）、㈱アイ・エム・シー（茨城県）、㈱ケイ・エム・シー（神奈川県）で行っております。

（在宅医療関連事業）

当部門は、当社、㈱星医療酸器関西及び㈱星医療酸器東海が、在宅酸素発生器等のレンタル業務を行っております。当社が在宅酸素発生器等の仕入を行い、㈱星医療酸器関西及び㈱星医療酸器東海にリースしております。

（医療用ガス設備工事関連事業）

当部門は、当社、㈱星医療酸器関西、㈱星医療酸器東海及び㈱星エンジニアリングが、医療用ガス配管設備の工事・メンテナンスを行っており、㈱星エンジニアリングに外注しております。

（介護福祉関連事業）

当部門は、当社、㈱星医療酸器関西及び㈱星医療酸器東海が、介護福祉関連機器等のレンタル業務及び販売を行っております。

（施設介護関連事業）

当部門は、当社が東京都杉並区阿佐ヶ谷にて有料老人ホーム「ライフステージ阿佐ヶ谷」及び東京都文京区にて通所介護施設「あしつよ・文京」を運営しております。

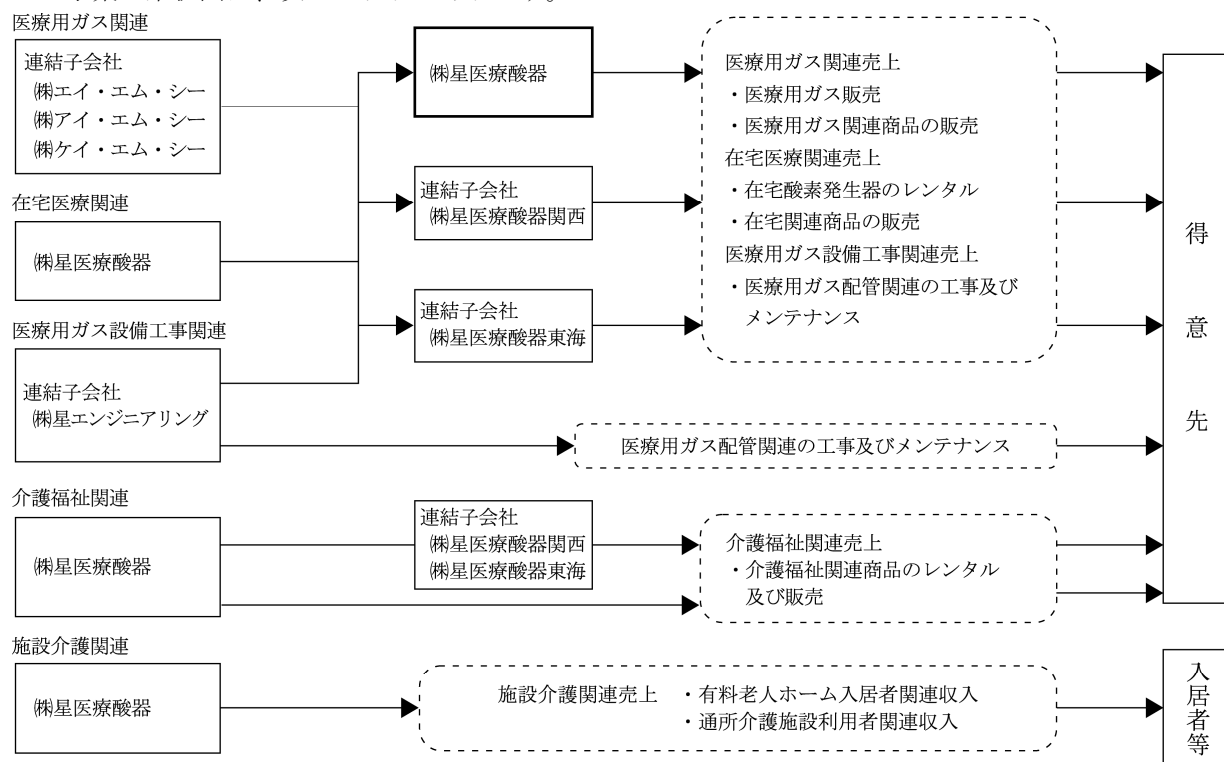
（その他事業）

当部門は、当社が看護学校関連商品の販売を行っております。また、当社、㈱星医療酸器関西及び㈱星医療酸器東海が、医療器具関連商品の販売を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社との当該事業における位置付けは次のとおりであります。

セグメント	事業内容	主要な会社	
医療用ガス関連事業	医療用ガスの製造及び販売 医療用ガス関連商品の企画及び販売	製造	(株)エイ・エム・シー (株)アイ・エム・シー (株)ケイ・エム・シー
		仕入	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
		販売	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
在宅医療関連事業	在宅酸素発生器等のレンタル業務	仕入	当社
		レンタル	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
医療用ガス設備工事関連事業	医療用ガス配管設備工事及び メンテナンス業務	施工・販売	(株)星エンジニアリング
		販売	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
介護福祉関連事業	介護福祉関連商品のレンタル及び販売	仕入	当社
		レンタル・販売	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
施設介護関連事業	有料老人ホーム及び 通所介護施設の運営	介護サービス	当社
その他事業	医療器具関連商品の販売 看護学校関連商品の販売	仕入	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海
		販売	当社 (株)星医療酸器関西 (株)星医療酸器東海

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) ㈱エイ・エム・シー	東京都 足立区	10,000	・医療用ガス関連 事業	70.0	—	・当社医療用ガスの製造 ・当社所有の建物及び設備の賃借 ・役員の兼任
㈱アイ・エム・シー	茨城県 小美玉市	25,000	〃	80.0	—	・当社医療用ガスの製造 ・当社所有の建物及び設備の賃借 ・役員の兼任
㈱ケイ・エム・シー	神奈川県 綾瀬市	10,000	〃	100.0	—	・当社医療用ガスの製造 ・当社所有の建物及び設備の賃借 ・役員の兼任
㈱星エンジニアリング	千葉県 千葉市 稲毛区	30,000	・医療用ガス設備 工事関連事業	100.0	—	・工事、メンテナンスの請負 ・当社所有の建物及び設備の賃借 ・役員の兼任
㈱星医療酸器東海	愛知県 小牧市	30,000	・医療用ガス関連 事業 ・在宅医療関連 事業 ・介護福祉関連 事業	100.0	—	・当社医療用ガスの販売 ・当社在宅医療関連商品の販売 ・当社介護福祉関連商品の販売 ・役員の兼任
㈱星医療酸器関西	大阪府 交野市	80,000	〃	100.0	—	・当社医療用ガスの販売 ・当社在宅医療関連商品の販売 ・当社介護福祉関連商品の販売 ・役員の兼任

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。
- 2 上記子会社中、㈱エイ・エム・シー、㈱星エンジニアリング及び㈱星医療酸器関西が特定子会社に該当しております。
- 3 上記会社のうちには、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
- 4 上記子会社のうちには、売上高(連結子会社間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が100分の10を超える会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
医療用ガス関連事業	257 (52)
在宅医療関連事業	
医療用ガス設備工事関連事業	
介護福祉関連事業	
その他事業	
施設介護関連事業	24 (20)
全社（共通）	61 (11)
合計	342 (83)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 当社の企業集団は、施設介護関連事業を除き、同一の従業員が複数の事業に従事しております。
3 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。
4 全社（共通）は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
217 (65)	36.6	7.5	4,776,390

セグメントの名称	従業員数(名)
医療用ガス関連事業	132 (34)
在宅医療関連事業	
医療用ガス設備工事関連事業	
介護福祉関連事業	
その他事業	
施設介護関連事業	24 (20)
全社（共通）	61 (11)
合計	217 (65)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 当社は、施設介護関連事業を除き、同一の従業員が複数の事業に従事しております。
3 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
5 全社（共通）は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、昨秋から急速に進んだ円安・株高を背景に企業や消費者の心理が上向き、景況感は改善基調に転じつつあります。

但し、欧州債務問題の再燃や日中関係の先行き不安等が完全に解消していないことから、不透明感が払拭出来ない状況で推移しました。

当医療ガス業界においては、業界内における競争が引続き激化しており、加えて医療機関経営の効率化や、医療技術の進化による入院日数の短期化等もあり、当社を取巻く環境は引続き厳しいものと思われます。

このような経営環境のもと、グループ各社との効率的な連携を図りつつ現状の営業基盤の拡充を図るとともに、国の在宅医療促進政策を加味して、新製品（無線通信機能を搭載した在宅酸素療法用酸素供給装置に付属する製品—製品名：パレッツ）の本格投入に始まり、在宅医療や介護福祉関連など多岐に亘る分野における取扱業務の多様化推進と、経営環境に即した柔軟な経営、並びに社会貢献を念頭に営業力の強化に努めてまいりました。

これらの結果、当期の連結売上高は8,886百万円（前年同期比2.8%増）、利益面では、連結経常利益は1,150百万円（前年同期比1.3%増）となり、連結当期純利益は691百万円（前年同期比4.0%増）と、いずれも前年同期を上回りました。

各部門の概況は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「介護福祉関連レンタル事業」について量的な重要性が増したため、「介護福祉関連事業」として区分表示することに変更しております。また、通所介護サービスの開始に伴い、第4四半期連結会計期間より「有料老人ホーム関連事業」を「施設介護関連事業」に名称を変更しております。

なお、当連結会計年度の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

①医療用ガス関連事業

当部門は、薬剤や医療機器の進歩、並びに患者様の身体的負担を軽減する医療技術の浸透などにより、術後のケアが短期間となりつつあることで、従来に比して入院日数が減少していることに伴い、医療用酸素ガスの消費量は鈍化の傾向にあります。

加えて、医療機関の淘汰や薬価の上昇が見込めない点等も勘案すると、現状の営業基盤を確保しつつ、その裾野を今後も継続的に拡大させる必要性がより一層高まっているものと認識しております。

このような環境を踏まえ、安定供給を旨とした営業努力を重ねましたが、売上高は3,327百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は407百万円（前年同期比13.6%減）となりました。

②在宅医療関連事業

当部門は、従前から重点部門として推進してきた結果、当社収益源の柱の一つとして成長しつつあります。また、国が在宅医療促進政策を推進するなか、新製品のパレッツを今期本格投入するなどの施策を打っており、当該製品は各地で開催される呼吸器学会等でも注目され、出荷数も順調に推移し始めております。

加えて、人工呼吸器やC P A P（持続陽圧呼吸療法—閉塞型睡眠時無呼吸症に対応する機器）に関する需要も増加傾向にあり、安定的な収益を確保した結果、売上高は3,176百万円（前年同期比3.3%増）、セグメント利益は539百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

③医療用ガス設備工事関連事業

当部門は、メンテナンス・工事の両部門において、安定した売上を確保しており、多くの医療機関で耐震補強工事及び老朽化による増改築工事の需要が継続している状況です。このような環境のなか大型案件の完成等が寄与し、売上高は1,102百万円（前年同期比24.4%増）、セグメント利益は134百万円（前年同期比52.7%増）となりました。

④介護福祉関連事業

当部門は、在宅及び病院・医療施設へのレンタルや特殊入浴装置買替需要の受注が堅調に推移したうえに、今期本格投入した「足漕ぎ車椅子」（歩行困難な方も、自身の両足でペダルを漕ぐことにより活動範囲が飛躍的に高まり、リハビリへの効果も期待出来る製品—製品名：プロファンド）も順調に取扱件数が増加しており、売上高は466百万円（前年同期比16.0%増）、セグメント利益は53百万円（前年同期比229.2%増）となりました。

⑤施設介護関連事業

東京都杉並区阿佐ヶ谷にて運営中の有料老人ホーム「ライフステージ阿佐ヶ谷」は、平成22年12月の増床後、一時的に低下した入居率の向上に向け営業努力を継続したことにより、昨秋以降徐々に回復基調に転じてまいりました。従来から実施している新聞折込・杉並区の広報誌への募集案内、杉並区と中野区を中心とした病院の医療相談室や居宅介護支援事業所への訪問等を継続し、稼働率の向上に向けた努力を行っております。

また、新たな取り組みとして通所介護施設「あしつよ・文京」を新設して、業務範囲の拡大も図りました。それらの結果、売上高は196百万円（前年同期比1.6%増）、セグメント損失は78百万円（前年同期セグメント損失55百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

1. 当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況説明

当連結会計年度において、現金及び現金同等物は228百万円増加し、当連結会計年度末残高は、5,643百万円となりました。

2. 各活動別の説明及び前年同期比

①営業活動により得られた資金は1,075百万円（前年同期比523百万円減）となりました。

これは税金等調整前当期純利益が1,149百万円（前年同期比14百万円増）となり、減価償却費440百万円、法人税等の支払543百万円（前年同期比261百万円増）があったこと等によるものです。

②投資活動により使用した資金は258百万円（前年同期比24百万円減）となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出190百万円（前年同期比50百万円増）、投資有価証券の取得による支出147百万円（前年同期比23百万円増）及び投資有価証券の売却及び償還による収入100百万円（前年同期比97百万円増）があったこと等によるものであります。

③財務活動により使用した資金は589百万円（前年同期比32百万円増）となりました。

これは、長期借入金の返済による支出117百万円、リース債務の返済による支出296百万円（前年同期比8百万円減）及び配当金の支払い132百万円があったこと等によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度(千円) (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
医療用ガス関連事業	422,685	△3.5
合計	422,685	△3.5

- (注) 1 金額は製造原価で表示しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度(千円) (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
医療用ガス関連事業	749,392	△0.7
その他事業	718,566	5.0
合計	1,467,959	2.0

- (注) 1 金額は仕入価格で表示しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度			
	受注高(千円) (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)	受注残高(千円) (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
医療用ガス設備工事 関連事業	922,725	△4.2	197,518	△47.6
合計	922,725	△4.2	197,518	△47.6

- (注) 1 金額は販売価格で表示しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3 受注状況は、工事関連の受注について記載しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度(千円) (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	前年同期比(%)
医療用ガス関連事業	3,327,660	△4.4
在宅医療関連事業	3,176,788	3.3
医療用ガス設備工事関連事業	1,102,397	24.4
介護福祉関連事業	466,259	16.0
施設介護関連事業	196,598	1.6
その他事業	616,369	2.2
合計	8,886,072	2.8

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は販売価格で表示しております。

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

今後の課題としましては、当業界を取り巻く環境も目まぐるしく変化する状況の中、国の政策も「訪問診療」や「訪問介護」等の在宅医療分野へ軸足が移りつつある点を視野に、当社の今後の営業指針をより一層明確にして活動を遂行していく重要性が増加してくるものと認識しております。

そのような状況を踏まえ、改めて原点に戻り、各営業拠点の収益構造や当該地区のマーケット等を、従来にも増して精緻に分析を行い、より一層収益向上に寄与する地区並びに業務に関して集中的に経営資源を投入するとともに、全社員における商品知識の確実な習得、並びに各種ニーズへの対応力をさらに進めるべく、引続き社員教育にも努め、屈強な企業体質の構築を図ってまいります。

また、在宅医療関連事業並びに介護福祉関連事業の取引基盤拡大や有料老人ホームの入居者確保に注力するとともに、今期新設した通所介護施設などを含め、新たな取扱業務や取扱商品の多様化を図るなど、グループ全体の収益源の多角化に向けた施策を実施して、企業価値並びに社会貢献度の向上に努める所存であります。

4 【事業等のリスク】

当社の経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 法的な規制について

当社グループの主要取扱商品である医療用ガスは、薬価基準に収載されております。薬価基準は、医療保険で利用できる医薬品の範囲と医療機関が使用した医薬品の請求価格を定めたものであります。従って、薬価基準は販売価格の上限として機能しております。このため、薬価改定の内容によっては医療用ガス等の販売価格に反映し、経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

また、医療用ガス及び医療用関連商品の販売並びに病院向けの医療用ガス配管設備の施工・メンテナンス、在宅酸素発生器等のレンタル、介護福祉関連機器のレンタル及び販売については、各事業は監督官庁の許可、登録、免許及び届出を受けて営業活動を行っておりますので、法令の改正等に伴い経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 告示価額制度について

当社グループは売上高に占める医療用ガスの割合が3分の1超であり、薬価の改訂により単価は引き下げ傾向にあります。将来において主力製品の単価に引き下げが発生した場合、経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 全国展開について

各事業所・営業所の営業力を強化し、新規取引先を中心に拡大しておりますが当初計画より遅れた場合、当社グループの利益の低下になり経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 安全について

当社グループは、高圧ガス保安法に則り医療用ガス等を製造・販売しておりますが、工場事故等が発生し生産量が低下した場合、当社グループの経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 事業投資について

当社グループは、近年積極的なM&Aを展開し業容の拡大を図っております。事業投資が当初計画から乖離した場合、当社グループの経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、在宅医療関連事業において、在宅酸素療法用酸素供給装置の遠隔操作システム（製品名：パレッツ）の開発等に取り組んでおり、当連結会計年度における研究開発活動の総額は15百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、見積りに関する事項は提出日現在で得られた情報に基づき判断をしておりますが、不確実な要因も含んでおり、実際の結果はこれらの見積りと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高は8,886百万円と243百万円の増収（前年同期比2.8%増）となりました。これは、医療用ガスの消費量が鈍化の傾向にあることなどから医療用ガス関連事業は減収となったものの、新製品の本格投入など受注・販売活動に注力した在宅医療関連事業や介護福祉関連事業が堅調であったことに加え、大型案件の完成等が寄与した医療用ガス設備工事関連事業が増収であったことなどによるものです。営業利益は前年同期比0.3%増の1,126百万円となりました。これは、競争激化に伴う販売価格の低下や商品構成の変化などに起因する利益率の悪化により売上総利益は減少したものの、前年同期に一時的な費用の計上があったことに加え、経費の削減に務めたことなどから販売費及び一般管理費が減少したことによるものです。経常利益は営業利益の増加に加え、支払利息の減少など営業外収支の改善もあり、前年同期比1.3%増の1,150百万円となりました。当期純利益は経常利益の増加と税金費用の減少などから、前年同期比4.0%増の691百万円となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主要取扱商品である医療用ガスは、薬価基準に収載されております。薬価基準は、厚生労働大臣が告示するものであり、医療保険で利用できる医薬品の範囲と医療機関が使用した医薬品の請求価格を定めたものであります。従って、薬価基準は販売価格の上限として機能しております。このため、薬価改定の内容によっては医療用ガス等の販売価格に反映し、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループの経営戦略は、医療用ガスの安定収益をベースとして、成長する在宅酸素市場でシェアアップするとともに、業界再編が進んでいる中でM&Aを含め更なる拡大を図ってまいりました。今後とも介護保険の充実を勘案し、成長市場である介護福祉事業の拡充と、今後の高齢化社会に対応した事業展開を進めてまいります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性について

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比して523百万円減少の1,075百万円となりました。この減少は、法人税等の支払額の増加261百万円や仕入債務など運転資金の変動が主要因であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得190百万円や投資有価証券の取得147百万円などの支出のほか、投資有価証券の償還による収入100百万円があったことなどから258百万円の支出となりました。前連結会計年度に比して24百万円の支出減少であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済296百万円や長期借入金の返済117百万円及び配当金支払い132百万円の支出に加え、自己株式の取得42百万円を行ったことから589百万円の支出となりました。前連結会計年度に比して32百万円の支出増加であります。

(6) 経営者の問題意識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、収益力、有利子負債等グループの現在の財務状況・事業環境を認識し、事業規模及び入手可能な情報に基づき経営資源の最も効率的な運用を行い、企業価値を最大限に高めるべく経営方針を立案するよう努めております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、医療ガスの継続的な安定供給、新規顧客の獲得などを目的とした設備投資を実施いたしました。

当連結会計年度の設備投資の総額は、319,390千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと次のとおりであります。

(1) 医療用ガス関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、医療用ガスの継続的な安定供給を目的として、医療ガス配管設備等に総額124,003千円の投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

(2) 在宅医療関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、新規顧客の獲得などを目的として、在宅酸素発生器等に総額140,322千円の投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

(3) 医療用ガス設備工事関連事業

当連結会計年度において重要な設備の取得、除却、売却等はありません。

(4) 介護福祉関連事業

当連結会計年度において重要な設備の取得、除却、売却等はありません。

(5) 施設介護関連事業

当連結会計年度において重要な設備の取得、除却、売却等はありません。

(6) その他事業

当連結会計年度において重要な設備の取得、除却、売却等はありません。

(7) 全社共通

当連結会計年度において重要な設備の取得、除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員 数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	リース資 産	その他	合計	
本社 (東京都足立区)	全社統括業務	統括業務施設	173,075	15,543	490,857 (3,945.22)	102,695	93,748	875,920	61
東京事業所 (東京都足立区)	医療用ガス関連事業 在宅医療関連事業 医療用ガス設備工事関連事業	製造・販売業務施設	23,837	3,098	535,593 (1,827.10)	44,854	52,596	659,978	24
北関東事業所 (群馬県伊勢崎市)	〃	販売業務施設	2,647	0	20,226 (826.12)	15,049	9,306	47,229	10
神奈川事業所 (神奈川県綾瀬市)	〃	製造・販売業務施設	21,527	0	159,607 (731.95)	26,501	19,472	227,107	9
茨城事業所 (茨城県小美玉市)	〃	〃	50,882	20,111	134,778 (4,227.00)	9,176	14,699	229,648	11
千葉支店 (千葉県千葉市稲毛区)	〃	販売業務施設	37,091	0	49,423 (1,607.00)	9,010	1,059	96,585	9
京浜営業所 (神奈川県川崎市川崎区)	〃	〃	5,109	—	160,000 (492.55)	8,628	9,106	182,844	8
南東京営業所 (東京都品川区)	〃	〃	7,397	—	204,847 (256.76)	25,357	49	237,651	10
埼玉営業所 (埼玉県北本市)	〃	〃	4,085	0	28,069 (1,141.95)	20,980	50,915	104,050	10
栃木事業所 (栃木県鹿沼市)	〃	〃	17,495	—	87,572 (3,510.92)	18,674	502	124,245	6
ライフステー ジ阿佐ヶ谷 (東京都杉並区)	施設介護 関連	有料老人 ホーム	247,154	—	—	—	6,146	253,300	24

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品であり、建設仮勘定は含んでおりません。なお、金額には消費税等は含めておりません。

2 東京事業所、神奈川事業所及び茨城事業所の製造設備はそれぞれ連結子会社(株)エイ・エム・シー、(株)ケイ・エム・シー及び(株)アイ・エム・シーへ賃貸しております。

(2) 国内子会社

国内子会社が所有する資産に重要性がないため、記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

重要な設備の新設等の計画はありません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,500,000
計	8,500,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,601,681	3,601,681	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	株主としての権利内容に制限 のない、標準となる株式であ り、単元株式数は100株であ ります。
計	3,601,681	3,601,681	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)	2,000	3,601,681	1,534	436,180	1,532	513,708

(注) 新株予約権の行使により増加しております。

(6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

平成26年6月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	10	8	18	3	—	994	1,033	—
所有株式数 (単元)	—	2,910	35	4,792	3,046	—	25,191	35,974	4,281
所有株式数 の割合(%)	—	8.09	0.10	13.32	8.47	—	70.02	100.00	—

(注) 自己株式297,988株は、「個人その他」に2,979単元、「単元未満株式の状況」に88株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
星医療酸器取引先持株会	東京都足立区入谷七丁目11番18号	423	11.75
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サブポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行 決済事業部)	245 Summer Street, Boston, Massachusetts 02221 U. S. A. (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	296	8.24
株式会社エム・エス・アール	埼玉県さいたま市見沼区大谷1144番地の4	282	7.84
星 昌 成	埼玉県さいたま市見沼区	208	5.79
星 孝 子	東京都北区	175	4.87
星 和 男	東京都北区	171	4.77
星 幸 男	埼玉県川口市	171	4.77
下 山 好 一	神奈川県横浜市中区	100	2.79
星医療酸器従業員持株会	東京都足立区入谷七丁目11番18号	89	2.49
榎 本 正 美	埼玉県さいたま市南区	68	1.89
計	—	1,987	55.19

(注) 上記のほか当社所有の自己株式297千株(8.27%)があります。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 297,900	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,299,500	32,995	同上
単元未満株式	普通株式 4,281	—	同上
発行済株式総数	3,601,681	—	—
総株主の議決権	—	32,995	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式88株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社星医療酸器	東京都足立区入谷 7—11—18	297,900	—	297,900	8.27
計	—	297,900	—	297,900	8.27

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成24年5月11日)での決議状況 (取得期間平成24年5月14日～平成24年5月14日)	40,000	85,200
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	20,000	42,600
残存決議株式の総数及び価額の総額	20,000	42,600
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	50.0	50.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	50.0	50.0

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(数)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	73	165
当期間における取得自己株式	15	38

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
保有自己株式数	297,988	—	298,003	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても配当性向を高め、安定的な配当の継続を業績に応じて、行うことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定につきましては、剰余金の配当を取締役会決議により行うことができる旨を定款で定めております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定配当の継続を基本方針に、一株当たり20円の中間配当、20円の期末配当による年間40円の配当を実施いたしました。この結果、当期の連結での配当性向は19.1%となりました。

内部留保資金につきましては、同業他社との競争激化に対処し営業体制の整備やコスト競争力の強化に備えるとともに、将来の事業展開に向けて有効に活用していくことといたします。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年11月9日 取締役会決議	66,074	20
平成25年5月13日 取締役会決議	66,073	20

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第35期	第36期	第37期	第38期	第39期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	1,854	1,950	2,175	2,195	2,480
最低(円)	1,050	1,509	1,755	1,863	2,050

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	2,270	2,240	2,300	2,320	2,460	2,480
最低(円)	2,212	2,050	2,140	2,205	2,280	2,361

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 名誉会長		星 昌 成	昭和8年12月9日生	昭和44年8月 昭和44年9月 昭和49年4月 昭和62年6月 平成6年6月 平成17年6月 平成24年6月	丸為株式会社退職 星医療酸器入店 株式会社星医療酸器取締役就任 代表取締役専務就任 代表取締役社長就任 代表取締役会長就任 取締役名誉会長就任（現任）	1	208
取締役 会長		下 山 好 一	昭和13年2月28日生	昭和44年7月 昭和44年9月 昭和49年4月 昭和62年6月 平成2年4月 平成11年6月 平成15年6月 平成17年6月 平成24年6月	丸為株式会社退職 星医療酸器入店 株式会社星医療酸器取締役就任 代表取締役専務就任 代表取締役専務就任 代表取締役副社長就任 取締役副社長就任 代表取締役副会長就任 取締役会長就任（現任）	1	100
代表取締役 社長		星 幸 男	昭和34年9月3日生	昭和63年6月 昭和63年7月 平成6年6月 平成8年6月 平成11年6月 平成12年4月 平成13年10月 平成17年6月	クラヤ薬品株式会社（現株式会社 クラヤ三星堂）退職 当社入社 取締役東京事業所長就任 取締役首都圏中部地区担当兼東京 事業所長就任 常務取締役首都圏中部地区担当兼 東京事業所長就任 常務取締役医療ガス事業本部長就 任 専務取締役医療ガス事業本部長就 任 代表取締役社長就任（現任）	1	171
専務取締役	九州・関 西・東海地 区担当	榎 本 誠	昭和28年11月27日生	昭和49年2月 昭和49年2月 平成3年4月 平成3年6月 平成9年10月 平成10年6月 平成12年4月 平成12年6月 平成13年10月 平成15年10月 平成17年6月 平成23年5月	東宝貿易株式会社退職 星医療酸器入店 北関東事業所長 取締役北関東事業所長就任 取締役千葉支店長就任 取締役首都圏東部地区担当兼千葉 支店長就任 取締役在宅医療事業本部副本部長 就任 常務取締役在宅医療事業本部副本 部長就任 常務取締役在宅医療事業本部長 株式会社星医療酸器関西 代表取締役就任（現任） 専務取締役関西・東海地区担当就 任 専務取締役九州・関西・東海地区 担当就任（現任）	1	62
専務取締役	C S R推進本 部担当	星 和 男	昭和32年9月3日生	昭和59年4月 平成6年6月 平成10年4月 平成11年4月 平成11年6月 平成17年6月 平成18年4月 平成19年9月	当社入社 取締役人事部部長就任 取締役人事部部長兼財務部長就任 取締役人事部部長就任 常務取締役人事部部長就任 専務取締役人事部部長就任 専務取締役人事部・C S R推進本 部担当 専務取締役C S R推進本部担当 （現任）	1	171

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	社長室長	星 昌 浩	昭和37年 3 月28日生	昭和63年 3 月 昭和63年 4 月 平成 6 年 6 月 平成10年 7 月 平成11年 6 月 平成17年 6 月	小池酸素工業株式会社退職 当社入社 取締役総務部次長就任 取締役社長室長就任 常務取締役社長室長就任 専務取締役社長室長就任(現任)	1	57
常務取締役	営業本部長兼 東京・埼玉地 区担当	茂 垣 行 雄	昭和34年10月 6 日生	昭和59年 6 月 平成 8 年10月 平成12年 4 月 平成14年 4 月 平成15年 6 月 平成16年 6 月 平成17年 6 月 平成18年 4 月 平成22年 2 月 平成23年 6 月	当社入社 東京事業所所長代理 東京事業所長 執行役員東京事業所長 執行役員東京地区担当 取締役東京地区担当就任 株式会社エイ・エム・シー代表取 締役就任 取締役東京・埼玉地区担当就任 常務取締役営業本部長就任 常務取締役営業本部長兼東京・埼 玉地区担当就任(現任) 株式会社エイ・エム・シー代表取 締役社長就任(現任)	1	16
常務取締役	営業副本部 長兼医療配 管設備事業 部長兼北海 道・千葉・ 茨城・神奈 川・群馬地 区担当	額 狩 光 男	昭和38年 6 月 7 日生	昭和62年10月 平成 6 年 4 月 平成11年10月 平成14年12月 平成16年 6 月 平成17年 4 月 平成18年 6 月 平成21年 4 月 平成23年 5 月 平成23年 6 月 平成23年 8 月 平成24年11月 平成24年12月	当社入社 郡山営業所長 東北事業所長 茨城事業所長 株式会社アイ・エム・シー代表取 締役就任 執行役員茨城事業所長 取締役茨城事業所長兼茨城・福島 担当就任 取締役茨城・福島・東北・栃木・ 群馬・長野地区担当 常務取締役営業副本部長兼北海 道・千葉・茨城・福島・東北・栃 木・群馬・長野地区担当就任 医療配管設備事業部長兼株式会 社アイ・エム・シー代表取締役就任 常務取締役営業副本部長兼医療配 管設備事業部長兼北海道・千葉・ 茨城・福島・東北・栃木・群馬地 区担当就任兼株式会社アイ・エ ム・シー代表取締役社長 常務取締役営業副本部長兼医療配 管設備事業部長兼北海道・千葉・ 茨城・神奈川・群馬地区担当就任 株式会社アイ・エム・シー代表取 締役(現任) 株式会社ケイ・エム・シー代表取 締役就任(現任)	1	9

役名	職名	職名	生年月日	略歴		任期	所有株数 (千株)
取締役	管理本部長 兼財務部長 ・IR担当	岡 田 利 夫	昭和27年8月25日生	平成13年11月 平成14年6月 平成14年10月 平成17年4月 平成19年11月 平成20年6月 平成21年2月 平成22年2月	株式会社三井住友銀行より当社へ 出向 当社社長付部長 株式会社三井住友銀行退職 当社入社 内部監査室長就任 執行役員内部監査室長就任 執行役員財務部長兼経営企画室長 就任 取締役財務部長兼経営企画室長就 任 取締役財務部長・IR担当就任 取締役管理本部長兼財務部長・IR 担当就任（現任）	1	0
取締役	生産本部長 兼購買部長	秋 元 典 男	昭和27年4月19日生	平成17年10月 平成18年4月 平成19年4月 平成20年6月 平成20年9月 平成20年10月 平成22年7月	大陽日酸株式会社より当社へ出向 当社経営企画室部長就任 当社生産本部生産管理部部長就任 当社執行役員生産本部長就任 当社取締役生産本部長就任 株式会社ケイ・エム・シー代表取 締役 株式会社エイ・エム・シー代表取 締役 株式会社アイ・エム・シー代表取 締役 大陽日酸株式会社退職 当社入社 取締役生産本部長兼購買部長（現 任）	1	0
取締役	在宅医療 事業部長	小 林 茂	昭和33年8月26日生	平成14年4月 平成15年10月 平成17年4月 平成18年4月 平成23年7月 平成24年6月	北関東事業所長 在宅担当部長 執行役員在宅医療事業部長 執行役員在宅酸素事業部長 上席執行役員在宅酸素事業部長 取締役在宅医療事業部長就任（現 任）	1	9
監査役	常勤	高 橋 満	昭和22年8月10日生	昭和63年6月 平成3年4月 平成3年6月 平成4年4月 平成10年4月 平成11年4月 平成13年4月 平成17年6月 平成18年4月 平成19年6月	小池酸素工業株式会社より当社へ 出向 千葉支店長 取締役千葉支店長就任 小池酸素工業株式会社退職 当社入社 取締役保安統括指導室 長就任 取締役総合企画室長兼内部監査室 長就任 取締役総合企画室長就任 取締役経営企画室長就任 常務取締役経営企画室長就任 常務取締役生産本部長就任 監査役就任（現任）	4	16

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		徳 田 孝 司	昭和29年1月16日生	昭和55年10月 昭和59年9月 昭和61年10月 平成14年2月 平成14年4月 平成19年12月 平成21年6月	朝日会計社（現 あずさ監査法人） 入社 公認会計士登録 本郷会計事務所（現 辻・本郷税理 士法人）入所 税理士登録 辻・本郷税理士法人副理事長就任 （現任） アジア航測株式会社社外監査役就任 （現任） 当社監査役就任（現任）	4	—
監査役		石 尾 肇	昭和35年12月1日生	昭和59年11月 昭和63年3月 昭和63年12月 平成元年12月 平成11年6月 平成21年6月	監査法人西方会計士事務所（現 監 査法人トーマツ）入所 公認会計士登録 石尾公認会計士事務所開設。同所所 長就任（現任） 税理士登録 監査法人エムエムピージー・エーマ ック代表社員就任（現任） 当社監査役就任（現任）	4	—
計							824

- （注） 1 取締役名誉会長星昌成は専務取締役星昌浩の父であります。
2 専務取締役星和男は代表取締役社長星幸男の兄であります。
3 代表取締役社長星幸男は専務取締役星和男の弟であります。
4 専務取締役星昌浩は取締役名誉会長星昌成の長男であります。
5 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員は5名で、栃木・郡山・東北地区担当長谷川正、山梨・長野地区担当三浦芳利、介護・福祉機器担当石田明己、総務担当阿部均、経営企画担当森敏浩で構成されております。
6 監査役徳田孝司、石尾肇は、社外監査役の要件を備えております。
7 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結のときから平成26年3月期に係る定時株主総会終結のときまでであります。
8 監査役徳田孝司、石尾肇の任期は平成25年3月期に係る定時株主総会終結のときから平成29年3月期に係る定時株主総会終結のときまでであります。
9 監査役高橋満の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結のときから平成27年3月期に係る定時株主総会終結のときまでであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

①コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社における、企業統治の体制は、上場企業としての社会的責任を認識し、株主をはじめとした顧客、取引先、従業員等からの信頼を獲得し、継続的に株主利益の増大と考えており、「経営の透明性の確保と迅速・明確な意思決定」「コンプライアンス経営の強化」「株主への説明責任の充実」「リスクマネジメントの構築」及び「企業倫理の確立」の実行に取り組んでおります。

(企業統治の体制の概要及び当該企業統治の体制を採用する理由)

企業統治の体制につきましては、監査役会制度を採用しており、当事業年度末において、取締役は11名、監査役は3名（内、社外監査役2名）となっております。

社外監査役につきましては、会社の最高権限者である代表取締役などと直接の利害関係のない有識者や経営者等から選任することにより、経営の健全化の維持・強化を図っており、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を経営の重要課題として位置付けております。

<取締役会>

取締役会は原則として月1回以上開催し、取締役会規程に基づき経営並びに業務執行に関する審議・決定報告を行っております。これらの取締役会には監査役も出席し、取締役の業務の執行状況を監視しております。

また、経営効率の向上を図るため、執行役員制度を導入しており、取締役数の適正化を図ることでの確かつ迅速な経営判断ができる体制を整えております。グループ全体の運営については、当社取締役会などにおいて適宜審議及び報告が行われております。

なお、取締役会の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役の任期を選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までと定めております。

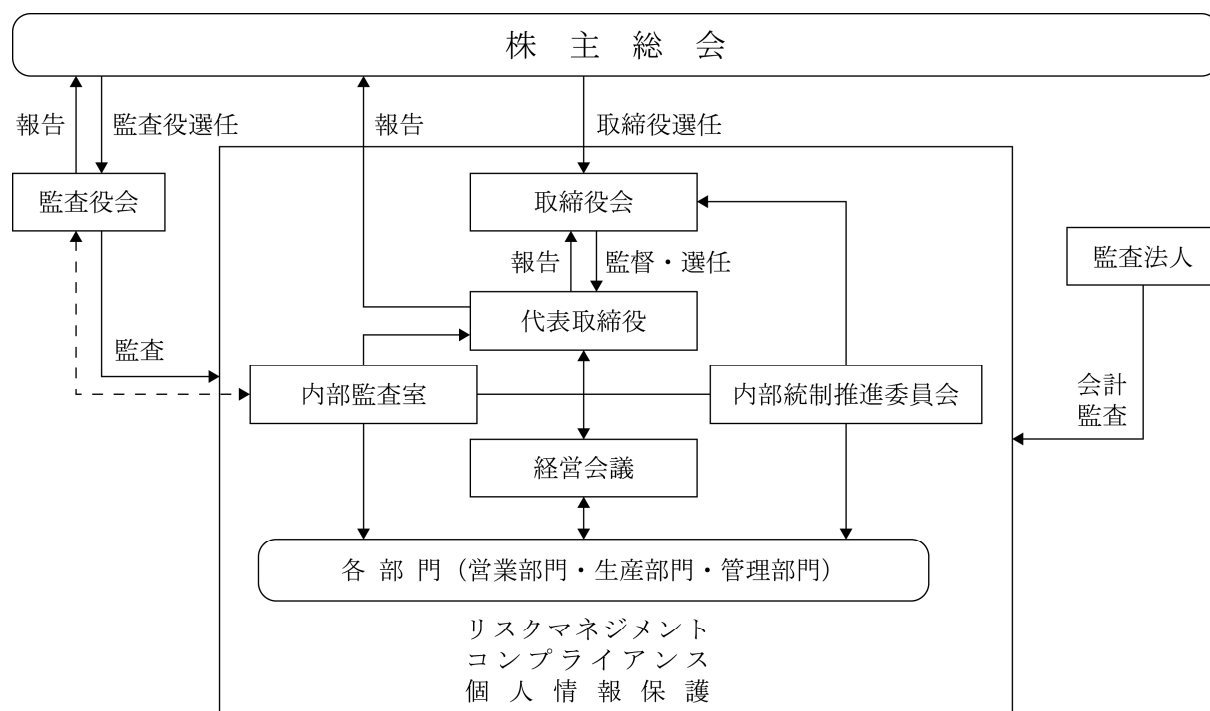
<監査役会>

監査役全員をもって構成し、取締役会への出席、決裁書の検閲などを通じ、取締役会の意思決定過程及び取締役の業務執行状況について監査しております。

<経営会議>

取締役、監査役及び執行役員、幹部社員の出席のもと経営会議を原則として月1回以上開催し、取締役会の決議事項内容、事業運営に関する法改正等の内容の連絡および各事業の予算実績の検討と業務執行状況をチェックするとともに、グループ全体の業務運営上の問題点、リスク管理への対応を検討しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は以下のとおりであります。



(内部統制システムの整備の状況)

内部統制の有効性及び実際の業務遂行状況につき、内部監査室が全部門を対象に監査役及び内部統制推進委員会と連携を取りながら、業務の適正な運営、社内規定との整合性等について年度計画に基づいて実施しております。また、業務監査につきましては監査結果を各部門に通知し改善事項の指摘指導を行い、実効性の高い監査を実施しております。グループ各社においても当社の内部監査室が業務監査を実施しております。

(リスク管理体制の整備の状況)

当社のリスク管理体制は内部監査室が各事業所・営業所を定期的に監査することで、リスクの所在を早期発見し、業務執行責任者である社長に報告できる体制を整えております。

また、コンプライアンス面での充実を趣旨として、事業活動において法律リスクの可能性を確認する場合、総務部が窓口となり、顧問弁護士、税理士、司法書士等からの助言や指導に基づき、リスクに対処する体制を整えております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査に関しては、内部監査室と監査役及び監査法人与連携を取りながら、業務の適正な運営、社内規定との整合性等について年度計画に基づき実施しております。

また、監査役会と監査法人との相互連携については、情報交換会を年4回開催し、お互いのコミュニケーションを図っております。会計監査業務の執行は、太陽A S G有限責任監査法人に所属する、公認会計士和田芳幸氏、齋藤哲氏であります。補助者は、公認会計士7名、その他7名で構成されております。

③ 社外取締役及び社外監査役

(a) 社外取締役及び社外監査役

徳田孝司氏は、辻・本郷税理士法人の副理事長であり、財務及び会計に関する専門知識を有することから社外監査役に選任しております。また、当社との間に特別利害関係等はありません。

石尾肇氏は、石尾公認会計事務所所長であり、財務及び会計に関する専門知識を有することから社外監査役に選任しております。また、当社との間に特別利害関係等はありません。

なお、提出日現在において、当社は社外取締役を選任しておりません。当社は、経営の意思決定機能と、取締役による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名中の2名を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による監査が実施されることにより、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

当社において、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、会社の最高権限者である代表取締役などと直接の利害関係のない有識者や経営者等から選任することを基本的な考えとしております。

(b) 取締役会及び監査役会への出席状況

区分	氏名	取締役会（13回開催）		監査役会（6回開催）	
		出席回数（回）	出席率（％）	出席回数（回）	出席率（％）
社外監査役	徳田 孝司	7	54	4	67
社外監査役	石尾 肇	10	77	5	83

(c) 取締役会及び監査役会における発言状況

社外監査役の徳田孝司氏は、公認会計士並びに税理士としての専門的見識に基づき、監査役会及び取締役会において、適宜必要な発言を行っております。

社外監査役の石尾肇氏は、公認会計士並びに税理士としての専門的見識に基づき、監査役会及び取締役会において、適宜必要な発言を行っております。

④ 役員の報酬等

当事業年度における当社の取締役及び監査役に対する役員報酬は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	役員退職慰労 引当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	253,500	253,050	450	11
監査役 (社外監査役を除く。)	9,000	7,920	1,080	1
社外役員	—	2,700	△2,700	2

(注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人給与は含まれておりません。

2. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので記載を省略しております。

3. 期末現在の人員数は、取締役11名、監査役3名（うち社外監査役2名）であります。なお、無報酬の社外監査役が1名在任しております。また、支給人員には退任取締役1名を含んでおります。

4. 取締役の報酬限度額は、平成11年6月29日開催の第25期定時株主総会において月額50,000千円以内と決議しております。

5. 監査役の報酬限度額は、平成21年6月26日開催の第35期定時株主総会において月額4,000千円以内と決議しております。

⑤コーポレート・ガバナンスの充実に向けた取組みの最近1年間における実施状況

- (a) 取締役会の下部組織として、内部統制推進委員会を設置しております。
- (b) 内部統制推進委員会を中心に、財務報告に係る内部統制体制の整備、リスクマネジメントやコンプライアンスの推進、個人情報保護対策等に努めております。法令遵守活動に向けた取組みの一環として、当社の社員を対象とした、コンプライアンス教育を実施しております。
- (c) 財務報告に係る内部統制の有効性を内部統制推進委員会が評価し、取締役会において、その活動内容及び進捗状況を報告しております。
- (d) 個人情報を含む重要情報漏洩防止の対策措置として、全従業員を対象とした個人情報保護教育を実施しております。
- (e) 法令、規則、企業倫理に違反した行為などに対して、従業員による監視をより強化するため、社内通報制度である「企業内ホットライン」を設置しております。

⑥親会社等に関する事項に関する基本方針

当社は、親会社等を有しておらず、該当事項はありません。

⑦取締役の定数

当社の取締役は、15名以内とする旨を定款に定めております。

⑧取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、累積投票によらない旨定款に定めております。

⑨株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(a) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であったものを含む。）の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議によって、免除することができる旨を定款に定めております。

(b) 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により、自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(c) 期末配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第459条第1項各号に定める事項により、取締役会の決議によって、毎年3月31日を基準日として、期末配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(d) 中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

⑩株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑪株式の保有状況

(a) 保有目的が純投資目的以外の目的の投資株式

ア) 銘柄数：8

イ) 貸借対照表計上額の合計額：286,059千円

(b) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大陽日酸株式会社	155,207	90,641	企業間取引の強化
小池酸素工業株式会社	248,613	53,451	企業間取引の強化
株式会社ハマイ	62,042	49,633	企業間取引の強化
株式会社ヤマト	70,000	22,120	企業間取引の強化
エア・ウォーター株式会社	12,737	13,603	企業間取引の強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	72,000	9,720	株式の安定化
全日本空輸株式会社	4,000	1,000	事業活動の円滑な推進

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
大陽日酸株式会社	171,259	109,263	企業間取引の強化
小池酸素工業株式会社	272,779	60,284	企業間取引の強化
株式会社ハマイ	63,756	51,897	企業間取引の強化
株式会社ヤマト	70,000	24,990	企業間取引の強化
エア・ウォーター株式会社	15,375	20,788	企業間取引の強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	72,000	14,328	株式の安定化
全日本空輸株式会社	4,000	768	事業活動の円滑な推進

(c) 保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

(d) 保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	21,200	—	21,200	—
連結子会社	—	—	—	—
計	21,200	—	21,200	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方法は、当社の事業規模・業務の特性等の要素を勘案した監査計画の説明を基に合理的な監査時間を見積り、監査報酬額を決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナー等へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,414,341	5,643,150
受取手形及び売掛金	1,778,301	1,734,131
商品及び製品	71,706	77,154
未成工事支出金	117,785	87,566
原材料及び貯蔵品	28,289	26,097
繰延税金資産	71,702	78,020
その他	38,152	41,567
貸倒引当金	△10,369	△6,957
流動資産合計	7,509,910	7,680,730
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,269,301	1,289,303
減価償却累計額	△652,915	△695,312
建物及び構築物（純額）	616,386	593,991
機械装置及び運搬具	342,240	354,505
減価償却累計額	△304,442	△315,752
機械装置及び運搬具（純額）	37,798	38,753
工具、器具及び備品	1,873,953	1,978,745
減価償却累計額	△1,620,964	△1,706,291
工具、器具及び備品（純額）	252,988	272,453
土地	1,851,903	1,870,975
リース資産	835,894	803,232
減価償却累計額	△353,254	△432,412
リース資産（純額）	482,640	370,819
建設仮勘定	1,665	7,830
有形固定資産合計	3,243,382	3,154,823
無形固定資産		
ソフトウェア	6,439	5,412
電話加入権	8,941	8,941
リース資産	109,256	82,627
その他	123	4,101
無形固定資産合計	124,760	101,083
投資その他の資産		
投資有価証券	496,966	541,997
長期貸付金	26,128	17,268
長期前払費用	13,903	28,061
繰延税金資産	183,962	171,386
その他	298,772	343,829
貸倒引当金	△2,184	△1,832
投資その他の資産合計	1,017,548	1,100,710
固定資産合計	4,385,692	4,356,617
資産合計	11,895,602	12,037,347

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,594,469	1,531,010
1年内返済予定の長期借入金	117,636	117,636
リース債務	274,426	234,521
未払法人税等	311,133	220,402
賞与引当金	108,400	120,000
設備関係支払手形	9,796	36,277
その他	439,453	403,286
流動負債合計	2,855,315	2,663,134
固定負債		
長期借入金	235,319	117,683
繰延税金負債	1,386	1,704
リース債務	345,962	234,653
役員退職慰労引当金	443,657	443,987
長期預り保証金	11,657	18,475
その他	20,655	38,023
固定負債合計	1,058,637	854,528
負債合計	3,913,953	3,517,662
純資産の部		
株主資本		
資本金	436,180	436,180
資本剰余金	513,708	513,708
利益剰余金	7,324,514	7,883,326
自己株式	△467,225	△509,990
株主資本合計	7,807,177	8,323,224
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,113	29,311
その他の包括利益累計額合計	13,113	29,311
少数株主持分	161,358	167,149
純資産合計	7,981,649	8,519,685
負債純資産合計	11,895,602	12,037,347

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高	8,642,419	8,886,072
売上原価	4,048,561	4,294,765
売上総利益	4,593,857	4,591,307
販売費及び一般管理費		
販売手数料	40,250	29,998
旅費及び交通費	316,353	327,208
役員報酬	296,040	299,403
給料	1,375,987	1,405,088
福利厚生費	218,924	216,334
賞与引当金繰入額	92,799	103,312
退職給付費用	116,272	105,013
役員退職慰労引当金繰入額	32,550	330
のれん償却額	8,666	1,904
減価償却費	129,594	124,412
貸倒引当金繰入額	△12,039	△3,408
その他	※1 854,741	※1 855,082
販売費及び一般管理費合計	3,470,141	3,464,679
営業利益	1,123,716	1,126,627
営業外収益		
受取利息	10,254	9,299
受取配当金	8,591	9,166
仕入割引	2,937	4,371
雑収入	3,150	9,542
営業外収益合計	24,933	32,380
営業外費用		
支払利息	12,937	8,559
雑損失	—	364
営業外費用合計	12,937	8,924
経常利益	1,135,712	1,150,083
特別利益		
投資有価証券売却益	600	—
固定資産売却益	※2 193	※2 —
特別利益合計	793	—
特別損失		
固定資産除却損	※3 2,201	※3 1,010
特別損失合計	2,201	1,010
税金等調整前当期純利益	1,134,304	1,149,073
法人税、住民税及び事業税	467,231	454,618
法人税等調整額	△5,220	△2,488
法人税等合計	462,010	452,129
少数株主損益調整前当期純利益	672,293	696,943
少数株主利益	7,253	5,581
当期純利益	665,039	691,362

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1日 至 平成25年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	672, 293	696, 943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6, 238	16, 407
その他の包括利益合計	※ △6, 238	※ 16, 407
包括利益	666, 054	713, 351
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	657, 320	707, 559
少数株主に係る包括利益	8, 734	5, 791

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	436,180	436,180
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	436,180	436,180
資本剰余金		
当期首残高	513,708	513,708
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	513,708	513,708
利益剰余金		
当期首残高	6,792,428	7,324,514
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	665,039	691,362
当期変動額合計	532,086	558,812
当期末残高	7,324,514	7,883,326
自己株式		
当期首残高	△467,025	△467,225
当期変動額		
自己株式の取得	△199	△42,765
当期変動額合計	△199	△42,765
当期末残高	△467,225	△509,990
株主資本合計		
当期首残高	7,275,291	7,807,177
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	665,039	691,362
自己株式の取得	△199	△42,765
当期変動額合計	531,886	516,046
当期末残高	7,807,177	8,323,224

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	20,832	13,113
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7,719	16,197
当期変動額合計	△7,719	16,197
当期末残高	13,113	29,311
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	20,832	13,113
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7,719	16,197
当期変動額合計	△7,719	16,197
当期末残高	13,113	29,311
少数株主持分		
当期首残高	152,623	161,358
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,734	5,791
当期変動額合計	8,734	5,791
当期末残高	161,358	167,149
純資産合計		
当期首残高	7,448,748	7,981,649
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	665,039	691,362
自己株式の取得	△199	△42,765
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,014	21,989
当期変動額合計	532,901	538,036
当期末残高	7,981,649	8,519,685

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,134,304	1,149,073
減価償却費	441,376	440,781
のれん償却額	8,666	1,904
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	30,060	330
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△13,128	△3,763
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,400	11,600
投資有価証券売却損益 (△は益)	△600	—
受取利息及び受取配当金	△18,846	△18,466
支払利息	12,937	8,559
有形固定資産除売却損益 (△は益)	2,008	1,010
売上債権の増減額 (△は増加)	△78,830	44,525
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,704	26,962
仕入債務の増減額 (△は減少)	260,502	△63,458
その他	95,690	10,437
小計	1,875,836	1,609,495
利息及び配当金の受取額	18,525	18,736
利息の支払額	△12,462	△8,518
法人税等の支払額	△282,466	△543,716
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,599,433	1,075,996
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△123,354	△147,342
投資有価証券の売却及び償還による収入	2,100	100,000
有形固定資産の取得による支出	△139,393	△190,334
有形固定資産の売却による収入	207	—
無形固定資産の取得による支出	△5,735	△2,304
長期貸付金の回収による収入	11,999	9,607
その他の支出	△31,256	△28,752
その他の収入	2,667	1,017
投資活動によるキャッシュ・フロー	△282,764	△258,109
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△305,322	△296,341
長期借入金の返済による支出	△117,636	△117,636
自己株式の取得による支出	△199	△42,765
配当金の支払額	△132,980	△132,335
財務活動によるキャッシュ・フロー	△556,139	△589,078
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	760,529	228,808
現金及び現金同等物の期首残高	4,653,811	5,414,341
現金及び現金同等物の期末残高	※ 5,414,341	※ 5,643,150

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

①連結子会社の状況

主要な子会社は全て連結しております。

当該連結子会社は、(株)エイ・エム・シー、(株)アイ・エム・シー、(株)ケイ・エム・シー、(株)星エンジニアリング、(株)星医療酸器関西、(株)星医療酸器東海の6社であります。

②非連結子会社の状況

非連結子会社 1社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

①持分法を適用した非連結子会社

該当事項はありません。

②持分法を適用しない非連結子会社 1社

持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないためであります。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度末日と連結決算日は、一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

a. 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

b. その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

商品・製品・原材料
主として総平均法
未成工事支出金
個別法
貯蔵品
最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備は除く)、レンタル用資産（工具器具及び備品）は、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15～38年

機械装置 10年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から、5年間で均等償却する方法によっております。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③リース資産

(イ) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(ロ) 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度の負担額を計上しております。

③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法

により按分した額を、発生の連結会計年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

なお、年金資産見込額が退職給付債務見込額に未認識過去勤務差異及び未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として長期前払費用に含めて計上しております。

④ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金支給内規に基づく、期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

① 売上高（工事関連売上高）は、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

② 有料老人ホーム入居一時金収入は、入居契約書に基づく入居一時金の償却相当額を経過期間に対応して計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却は、5年間で均等償却しております。ただし、金額が僅少なものは発生年度で一時に償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）の公表

(1) 概要

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、連結貸借対照表の純資産の部において税効果を調整した上で認識し、積立状況を示す額を負債又は資産として計上する方法に改正されました。また、退職給付見込額の期間帰属方法について、期間定額基準のほか給付算定基準の適用が可能となったほか、割引率の算定方法が改正されました。

(2) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定であります。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改

正については、平成27年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ3,657千円増加しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

※1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
研究開発費	22,695千円	15,000千円

※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	193千円	一千円

※3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	一千円	9千円
機械装置及び運搬具	1,228千円	一千円
工具、器具及び備品	972千円	1,001千円
計	2,201千円	1,010千円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△10,301千円	25,472千円
組替調整額	— 千円	一千円
税効果調整前	△10,301千円	25,472千円
税効果額	4,062 千円	△9,065千円
その他有価証券評価差額金	△6,238千円	16,407千円
その他の包括利益合計	△6,238千円	16,407千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,601,681	—	—	3,601,681

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	277,814	101	—	277,915

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 101株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月9日 取締役会	普通株式	66,477	20.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年11月7日 取締役会	普通株式	66,476	20.00	平成23年9月30日	平成23年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	66,475	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	3,601,681	—	—	3,601,681

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	277,915	20,073	—	297,988

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

取締役会決議による自己株式の取得	20,000株
単元未満株式の買取請求による増加	73株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月11日 取締役会	普通株式	66,475	20.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	66,074	20.00	平成24年9月30日	平成24年12月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	66,073	20.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	5,414,341千円	5,643,150千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	—千円	—千円
現金及び現金同等物	5,414,341千円	5,643,150千円

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

・無形固定資産

ソフトウェアであります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

・有形固定資産

在宅医療関連事業における在宅酸素発生器(工具、器具及び備品)及びサーバー等情報機器(工具、器具及び備品)であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リースについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(ア) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,800千円	4,320千円	480千円
合計	4,800千円	4,320千円	480千円

	当連結会計年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,800千円	4,800千円	―千円
合計	4,800千円	4,800千円	―千円

(イ) 未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年以内	515千円	一千円
1年超	一千円	一千円
合計	515千円	一千円

(ウ) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	1,031千円	511千円
減価償却費相当額	960千円	480千円
支払利息相当額	30千円	4千円

(エ) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年以内	95,982千円	101,057千円
1年超	1,329,844千円	1,277,575千円
合計	1,425,827千円	1,378,632千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入）を調達しております。一時的な余資は主に安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが6ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、財務部及び経理部が全ての取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券について、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、財務部及び経理部が適時に支払計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度(平成24年3月31日)

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）を参照ください。）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	5,414,341	5,414,341	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,778,301	1,778,301	—
(3) 投資有価証券			
①満期保有目的の債券	203,466	202,770	△696
②其他有価証券	289,759	289,759	—
資産計	7,685,869	7,685,172	△696
(1) 支払手形及び買掛金	1,594,469	1,594,469	—
(2) 長期借入金	352,955	349,059	△3,895
(3) リース債務	620,388	612,803	△7,584
負債計	2,567,812	2,556,332	△11,480

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び投資有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらはそのほとんどが短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に、想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(3) リース債務

リース債務はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	3,740

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,414,341	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,748,633	29,667	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	—	—	203,466	—

(注4) 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	117,636	117,636	117,683	—	—	—
リース債務	274,426	192,124	98,909	39,798	11,260	3,868
合計	392,062	309,760	216,592	39,798	11,260	3,868

当連結会計年度(平成25年3月31日)

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)を参照ください。)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	5,643,150	5,643,150	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,734,131	1,734,131	—
(3) 投資有価証券			
① 満期保有目的の債券	202,682	201,600	△1,082
② その他有価証券	335,575	335,575	—
資産計	7,915,539	7,914,457	△1,082
(1) 支払手形及び買掛金	1,531,010	1,531,010	—
負債計	1,531,010	1,531,010	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び投資有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 受取手形及び売掛金

これらはそのほとんどが短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(千円)
非上場株式	3,740

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,643,150	—	—	—
受取手形及び売掛金	1,731,354	2,777	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券(社債)	—	—	200,000	—

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	100,360	100,600	239
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	103,106	102,170	△936
合計	203,466	202,770	△696

当連結会計年度(平成25年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	202,682	201,600	△1,082
合計	202,682	201,600	△1,082

2 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	163,598	130,153	33,445
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	163,598	130,153	33,445
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	126,160	139,763	△13,602
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	126,160	139,763	△13,602
合計	289,759	269,917	19,842

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
①株式	244,925	190,447	54,477
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	244,925	190,447	54,477
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
①株式	90,650	99,812	△9,162
②債券	—	—	—
③その他	—	—	—
小計	90,650	99,812	△9,162
合計	335,575	290,260	45,315

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	2,100	600	—
債券	—	—	—
その他	—	—	—
合計	2,100	600	—

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、厚生年金基金制度(総合設立型)及び確定給付企業年金制度を設けております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
年金資産の額	12,250,741千円	12,695,390千円
年金財政計算上の給付債務の額	13,354,259千円	13,869,264千円
差引額	△1,103,517千円	△1,173,873千円

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

前連結会計年度 9.00%(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当連結会計年度 9.61%(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度646,222千円、当連結会計年度596,172円)、繰越不足金(前連結会計年度479,042千円、当連結会計年度457,294千円)及び当年度剰余金(前連結会計年度21,747千円、当連結会計年度120,406千円)であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であり、当社グループは当期の連結財務諸表上、特別掛金(前連結会計年度7,501千円、当連結会計年度7,847千円)を費用処理しております。

なお、上記(2)の掛金拠出割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務 (内訳)	445,952千円	494,762千円
(2) 未認識過去勤務債務	△11,340千円	△5,897千円
(3) 未認識数理計算上の差異	48,833千円	38,256千円
(4) 年金資産 (注) 1	△492,737千円	△552,543千円
差引	△9,293千円	△25,421千円
(5) 前払年金費用 (注) 2	9,293千円	25,421千円
(6) 退職給付引当金	—千円	—千円

(注) 1 「(4)年金資産」には厚生年金基金制度(総合設立型)に係る年金資産は含まれておりません。

(注) 2 「(5)前払年金費用」は年金資産見込額が退職給付見込額に未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として長期前払費用に含めて計上しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(1) 勤務費用 (注) 1	124,324千円	121,198千円
(2) 利息費用	6,610千円	6,124千円
(3) 期待運用収益	△6,610千円	△7,391千円
(4) 過去勤務債務の費用処理額	5,443千円	5,443千円
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	2,419千円	△6,559千円
(6) 退職給付費用	132,187千円	118,815千円

(注) 1 厚生年金基金制度(総合設立型)に係る拠出額(前連結会計年度69,848千円、当連結会計年度71,105千円)を含めて記載しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.4%	1.4%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.5%	1.5%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。)

(5) 数理計算上の差異の処理年数

5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法。ただし、翌連結会計年度から費用処理しております。)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	164,180千円	158,095千円
投資有価証券評価損	9,645千円	9,645千円
賞与引当金	41,457千円	45,860千円
未払事業税	23,147千円	18,642千円
減損損失	4,151千円	3,865千円
一括償却資産	596千円	4,441千円
減価償却超過額	17,652千円	19,190千円
未払費用	6,724千円	7,552千円
その他	10,507千円	24,854千円
繰延税金資産小計	278,065千円	292,149千円
評価性引当額	△13,249千円	△9,645千円
繰延税金資産合計	264,816千円	282,503千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△7,050千円	△16,996千円
長期前払費用	△3,486千円	△9,108千円
その他	—千円	△8,696千円
繰延税金負債合計	△10,537千円	△34,801千円
繰延税金資産の純額	254,279千円	247,702千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	71,702千円	78,020千円
固定資産－繰延税金資産	183,962千円	171,386千円
固定負債－繰延税金負債	△1,386千円	△1,704千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は、本社にサービス別の事業本部を置き、各事業本部は取り扱うサービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は事業本部を基礎としたサービス別セグメントから構成されており、「医療用ガス関連事業」、「在宅医療関連事業」、「医療用ガス設備工事関連事業」、「介護福祉関連事業」、「施設介護関連事業」の5つを報告セグメントとしております。

なお、第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「介護施設関連レンタル事業」について量的な重要性が増したため、「介護福祉関連事業」として区分表示することに変更しております。

また、通所介護サービスの開始に伴い、第4四半期連結会計期間より「有料老人ホーム関連事業」を「施設介護関連事業」に名称を変更しております。

「医療用ガス関連事業」は、医療用酸素ガス、麻酔用ガス及びその他医療用ガス全般の販売をしております。

「在宅医療関連事業」は、在宅酸素療法用酸素濃縮器、持続陽圧呼吸療法用機器、在宅人工呼吸器等のレンタル及び販売を行っております。

「医療用ガス設備工事関連事業」は、医療用ガス配管工事の設計・施工及び医療用ガス配管設備保守点検等を行っております。

「介護福祉関連事業」は、介護福祉関連用品、機器等のレンタル、販売及び住宅改修等を行っております。

「施設介護関連事業」は、有料老人ホーム、通所介護施設の運営及びそれに付帯する業務等を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 事業 (注)	合計
	医療用ガス 関連事業	在宅医療 関連事業	医療用ガス 設備工事 関連事業	介護福祉 関連事業	施設介護 関連事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,481,450	3,075,798	886,366	402,099	193,582	8,039,296	603,122	8,642,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	68,285	—	—	68,285	—	68,285
計	3,481,450	3,075,798	954,651	402,099	193,582	8,107,581	603,122	8,710,704
セグメント利益又は損失(△)	471,026	527,465	88,285	16,200	△55,489	1,047,488	84,010	1,131,498
セグメント資産	936,730	1,168,572	276,495	101,473	277,339	2,760,612	44,828	2,805,441
その他の項目								
減価償却費	96,979	243,753	2,815	8,509	27,208	379,265	463	379,729
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	121,139	271,311	714	21,664	—	414,829	19	414,849

(注) 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、看護学校関連事業、医療器具関連事業等を含んでおります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 事業 (注)	合計
	医療用ガス 関連事業	在宅医療 関連事業	医療用ガス 設備工事 関連事業	介護福祉 関連事業	施設介護 関連事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,327,660	3,176,788	1,102,397	466,259	196,598	8,269,703	616,369	8,886,072
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	94,430	—	—	94,430	—	94,430
計	3,327,660	3,176,788	1,196,827	466,259	196,598	8,364,134	616,369	8,980,503
セグメント利益又は損失(△)	407,000	539,338	134,825	53,339	△78,174	1,056,329	84,986	1,141,315
セグメント資産	1,022,589	979,264	242,288	96,588	272,650	2,613,382	49,197	2,662,579
その他の項目								
減価償却費	101,686	234,333	2,757	12,010	22,542	373,330	507	373,837
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	124,003	140,322	302	5,584	17,352	287,566	61	287,627

(注) 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、看護学校関連事業、医療器具関連事業等を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	8,107,581	8,364,134
「その他事業」の区分の売上高	603,122	616,369
セグメント間取引消去	△68,285	△94,430
連結財務諸表の売上高	8,642,419	8,886,072

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,047,488	1,056,329
「その他事業」の区分の利益	84,010	84,986
セグメント間取引消去	△7,782	△14,687
連結財務諸表の営業利益	1,123,716	1,126,627

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,760,612	2,613,382
「その他事業」の区分の資産	44,828	49,197
全社資産(注)	9,090,161	9,374,768
連結財務諸表の資産合計	11,895,602	12,037,347

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社の現金及び預金、売上債権、土地建物等があります。

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計	その他事業	調整額(注)	連結財務諸表計上額
減価償却費	379,265	463	61,647	441,376
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	414,829	19	135,865	550,715

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社建物等の設備投資額であります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計	その他事業	調整額（注）	連結財務諸表 計上額
減価償却費	373,330	507	66,943	440,781
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	287,566	61	31,762	319,390

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社建物等の設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント計	その他事業	全社・消去	合計
当期償却額	—	8,666	—	8,666
当期末残高	—	—	—	—

(注) 「その他事業」の金額は、看護学校関連事業に係る金額であります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント計	その他事業	全社・消去	合計
当期償却額	1,904	—	—	1,904
当期末残高	—	—	—	—

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	2,352円84銭	2,528円24銭
1株当たり当期純利益金額	200円08銭	209円11銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	665,039	691,362
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	665,039	691,362
普通株式の期中平均株式数(株)	3,323,826	3,306,262

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	7,981,649	8,519,685
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)		
(うち少数株主持分)	(161,358)	(167,149)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	7,820,291	8,352,535
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	3,323,766	3,303,693

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	117,636	117,636	0.6	—
1年以内に返済予定のリース債務	274,426	234,521	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	235,319	117,683	0.6	平成26年4月～ 平成27年3月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	345,962	234,653	—	平成26年4月～ 平成31年12月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	973,343	704,493	—	—

(注) 1 平均利率は、期末残高及び利率に基づき算定しております。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	117,683	—	—	—
リース債務	140,992	61,197	16,375	8,520

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	2, 086, 787	4, 220, 809	6, 288, 853	8, 886, 072
税金等調整前 四半期 (当期) 純利益 (千円) 金額	280, 569	548, 895	804, 655	1, 149, 073
四半期 (当期) 純利益 (千円) 金額	167, 868	330, 769	482, 604	691, 362
1 株当たり 四半期 (当期) 純利益 (円) 金額	50. 66	99. 97	145. 93	209. 11

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり 四半期純利益金額 (円)	50. 66	49. 31	45. 96	63. 19

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31 日)	当事業年度 (平成25年 3 月31 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,422,910	4,381,627
受取手形	211,410	179,797
売掛金	1,221,274	1,222,853
商品及び製品	55,069	58,661
未成工事支出金	50	34,400
原材料及び貯蔵品	6,946	6,142
前払費用	11,061	10,924
繰延税金資産	50,159	56,434
その他	28,402	38,038
貸倒引当金	△3,672	△2,089
流動資産合計	6,003,613	5,986,789
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,224,400	1,242,044
減価償却累計額	△618,323	△658,909
建物（純額）	606,076	583,134
構築物	43,395	45,753
減価償却累計額	△33,428	△35,187
構築物（純額）	9,967	10,566
機械及び装置	283,361	283,361
減価償却累計額	△248,970	△258,901
機械及び装置（純額）	34,391	24,460
車両運搬具	58,078	70,343
減価償却累計額	△54,671	△56,050
車両運搬具（純額）	3,407	14,293
工具、器具及び備品	1,898,573	2,017,531
減価償却累計額	△1,634,142	△1,724,417
工具、器具及び備品（純額）	264,430	293,114
土地	1,851,903	1,870,975
リース資産	687,049	683,937
減価償却累計額	△275,185	△357,673
リース資産（純額）	411,863	326,264
建設仮勘定	2,070	—
有形固定資産合計	3,184,109	3,122,808
無形固定資産		
ソフトウェア	5,403	4,631
電話加入権	8,795	8,795
リース資産	109,256	82,627
その他	123	4,101
無形固定資産合計	123,579	100,156

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	447,377	488,742
関係会社株式	156,659	183,659
出資金	33,418	33,418
長期貸付金	26,128	17,268
関係会社長期貸付金	20,000	—
破産更生債権等	527	172
長期前払費用	7,402	20,129
繰延税金資産	176,641	160,668
敷金及び保証金	67,431	59,733
会員権	40,026	40,026
保険積立金	148,330	175,192
その他	5,901	5,149
貸倒引当金	△2,226	△1,832
投資その他の資産合計	1,127,619	1,182,327
固定資産合計	4,435,307	4,405,292
資産合計	10,438,921	10,392,081
負債の部		
流動負債		
支払手形	※ 525,376	※ 446,308
買掛金	※ 1,234,580	※ 1,176,915
1年内返済予定の長期借入金	117,636	117,636
未払金	103,943	26,605
未払費用	160,095	169,939
リース債務	230,480	204,319
未払法人税等	247,298	169,973
未払消費税等	23,718	34,529
前受金	3,595	2,018
預り金	21,833	30,704
賞与引当金	71,800	82,000
設備関係支払手形	31,846	92,328
その他	39,198	28,182
流動負債合計	2,811,403	2,581,461
固定負債		
長期借入金	235,319	117,683
リース債務	315,176	217,656
役員退職慰労引当金	439,157	437,987
長期預り金	19,485	19,485
資産除去債務	1,169	18,538
その他	11,657	18,475
固定負債合計	1,021,966	829,826
負債合計	3,833,369	3,411,287

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	436,180	436,180
資本剰余金		
資本準備金	513,708	513,708
資本剰余金合計	513,708	513,708
利益剰余金		
利益準備金	19,810	19,810
その他利益剰余金		
別途積立金	4,890,000	5,290,000
繰越利益剰余金	1,198,681	1,200,340
利益剰余金合計	6,108,491	6,510,150
自己株式	△467,225	△509,990
株主資本合計	6,591,154	6,950,047
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	14,396	30,746
評価・換算差額等合計	14,396	30,746
純資産合計	6,605,551	6,980,794
負債純資産合計	10,438,921	10,392,081

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高		
商品売上高	4,203,581	4,105,035
在宅関連収入	2,326,274	2,380,140
工事売上高	588,821	487,881
施設介護売上高	193,582	195,680
売上高合計	7,312,259	7,168,737
売上原価		
商品期首たな卸高	54,207	51,099
当期商品仕入高	2,092,879	2,071,944
合計	2,147,087	2,123,044
商品期末たな卸高	51,099	54,173
商品売上原価	2,095,987	2,068,870
在宅関連収入原価	886,883	951,340
工事売上原価	506,961	354,542
施設介護売上原価	211,998	236,636
売上原価合計	※1 3,701,831	※1 3,611,389
売上総利益	3,610,427	3,557,348
販売費及び一般管理費		
販売手数料	36,970	26,223
配送費	234,008	222,065
旅費及び交通費	171,977	182,663
役員報酬	259,860	263,670
給料	966,836	994,188
福利厚生費	156,053	151,284
賞与引当金繰入額	68,560	79,200
退職給付費用	90,564	77,610
役員退職慰労引当金繰入額	32,550	△1,170
賃借料	94,460	93,244
保険料	32,184	34,981
減価償却費	133,137	129,401
貸倒引当金繰入額	△12,907	△1,621
その他	※2 594,418	※2 563,997
販売費及び一般管理費合計	2,858,672	2,815,740
営業利益	751,755	741,607

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業外収益		
受取利息	7,352	5,254
有価証券利息	2,690	3,679
受取配当金	7,232	7,651
受取賃貸料	※1 83,926	※1 91,066
経営指導料	※1 59,880	※1 61,860
雑収入	2,882	6,677
営業外収益合計	163,964	176,188
営業外費用		
支払利息	11,713	7,862
賃貸原価	15,416	18,471
雑損失	—	363
営業外費用合計	27,129	26,697
経常利益	888,590	891,099
特別利益		
投資有価証券売却益	600	—
固定資産売却益	※3 193	※3 —
特別利益合計	793	—
特別損失		
固定資産除却損	※4 2,270	※4 1,183
特別損失合計	2,270	1,183
税引前当期純利益	887,112	889,916
法人税、住民税及び事業税	370,353	355,047
法人税等調整額	△3,366	660
法人税等合計	366,987	355,707
当期純利益	520,125	534,208

【在宅関連収入原価明細書】

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 機器リース関連費用	581,586	65.6	626,933	65.8
II その他仕入	305,471	34.4	325,068	34.2
計	887,058	100.0	952,002	100.0
商品期首たな卸高	3,437		3,612	
商品期末たな卸高	3,612		4,274	
計	886,883		951,340	

【工事売上原価明細書】

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料仕入高	1,993	0.4	1,692	0.4
II 外注発生高	470,756	99.6	387,055	99.6
計	472,750	100.0	388,748	100.0
期首未成工事支出金	34,493		281	
期末未成工事支出金	281		34,487	
計	506,961		354,542	

当社の原価計算の方法につきましては、個別原価計算を採用しております。

【施設介護売上原価明細書】

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料仕入高	7,740	3.6	8,183	3.5
II 労務費	72,868	34.4	83,729	35.4
III 経費	131,381	62.0	144,724	61.1
計	211,991	100.0	236,637	100.0
期首施設介護たな卸高	132		125	
期末施設介護たな卸高	125		126	
計	211,998		236,636	

③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	436,180	436,180
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	436,180	436,180
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	513,708	513,708
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	513,708	513,708
資本剰余金合計		
当期首残高	513,708	513,708
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	513,708	513,708
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	19,810	19,810
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	19,810	19,810
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	4,390,000	4,890,000
当期変動額		
別途積立金の積立	500,000	400,000
当期変動額合計	500,000	400,000
当期末残高	4,890,000	5,290,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,311,510	1,198,681
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
別途積立金の積立	△500,000	△400,000
当期純利益	520,125	534,208
当期変動額合計	△112,828	1,658
当期末残高	1,198,681	1,200,340
利益剰余金合計		
当期首残高	5,721,320	6,108,491
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	520,125	534,208
当期変動額合計	387,171	401,658
当期末残高	6,108,491	6,510,150

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
自己株式		
当期首残高	△467,025	△467,225
当期変動額		
自己株式の取得	△199	△42,765
当期変動額合計	△199	△42,765
当期末残高	△467,225	△509,990
株主資本合計		
当期首残高	6,204,182	6,591,154
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	520,125	534,208
自己株式の取得	△199	△42,765
当期変動額合計	386,971	358,893
当期末残高	6,591,154	6,950,047
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	20,649	14,396
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,252	16,349
当期変動額合計	△6,252	16,349
当期末残高	14,396	30,746
評価・換算差額等合計		
当期首残高	20,649	14,396
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,252	16,349
当期変動額合計	△6,252	16,349
当期末残高	14,396	30,746
純資産合計		
当期首残高	6,224,832	6,605,551
当期変動額		
剰余金の配当	△132,953	△132,550
当期純利益	520,125	534,208
自己株式の取得	△199	△42,765
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△6,252	16,349
当期変動額合計	380,718	375,243
当期末残高	6,605,551	6,980,794

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

(2) 子会社株式

移動平均法による原価法

(3) その他有価証券

① 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

② 時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

(1) 商品

主として総平均法

(2) 未成工事支出金

個別法

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備は除く)、レンタル用資産（工具器具及び備品）は、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15～38年

機械装置 10年

また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から、5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産除く）

① 自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

② のれんの償却は、5年間で均等償却しております。ただし、金額が僅少なものは発生年度で一時に償却しております。

(3) リース資産

(イ) 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(ロ) 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当期の負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、発生の事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

なお、年金資産見込額が退職給付債務見込額に未認識過去勤務債務及び未認識数理計算上の差異を加減算した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として長期前払費用に含めて計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金支給内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

5 収益及び費用の計上基準

①工事売上高は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については、工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

②有料老人ホーム入居一時金収入は、入居契約書に基づく入居一時金の償却相当額を経過期間に対応して計上しております。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、「固定負債」の「その他」に含めていた「資産除去債務」は金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた12,827千円は、「資産除去債務」1,169千円、「その他」11,657千円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ4,028千円増加しております。

(貸借対照表関係)

※ 関係会社に対する主な資産・負債

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
支払手形	165,243千円	199,076千円
買掛金	679,818千円	642,442千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引により発生したもののうち主なものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	1,245,847千円	1,164,669千円
受取賃貸料	83,420千円	90,420千円
経営指導料	59,880千円	61,860千円

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
研究開発費	22,695千円	15,000千円

※3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
車両運搬具	193千円	一千円

※4 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	一千円	9千円
機械及び装置	1,228千円	一千円
工具、器具及び備品	1,042千円	1,174千円
計	2,270千円	1,183千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	277,814	101	—	277,915

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 101株

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	277,915	20,073	—	297,988

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

取締役会決議による自己株式の取得 20,000株

単元未満株式の買取請求による増加 73株

(リース取引関係)

(借主側)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

・無形固定資産

ソフトウェアであります。

②リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

・有形固定資産

在宅医療関連事業における在宅酸素発生器（工具、器具及び備品）及びサーバー等情報機器（工具、器具及び備品）であります。

②リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リースについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(ア) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,800千円	4,320千円	480千円
合計	4,800千円	4,320千円	480千円

	当事業年度 (平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
工具、器具及び備品	4,800千円	4,800千円	—千円
合計	4,800千円	4,800千円	—千円

(イ) 未経過リース料期末残高相当額

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年以内	515千円	一千円
1年超	一千円	一千円
合計	515千円	一千円

(ウ) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	1,031千円	511千円
減価償却費相当額	960千円	480千円
支払利息相当額	30千円	4千円

(エ) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年以内	95,982千円	101,057千円
1年超	1,329,844千円	1,277,575千円
合計	1,425,827千円	1,378,632千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位：千円)

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
子会社株式	156,659	183,659

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	162,452千円	155,923千円
投資有価証券評価損	9,645千円	9,645千円
賞与引当金	27,284千円	31,160千円
未払事業税	17,954千円	13,965千円
減損損失	4,151千円	3,865千円
一括償却資産	1,270千円	4,282千円
減価償却超過額	17,652千円	19,190千円
未払費用	4,888千円	5,585千円
関係会社株式評価損	10,680千円	10,680千円
その他	3,703千円	12,897千円
繰延税金資産小計	259,683千円	267,196千円
評価性引当額	△23,929千円	△20,325千円
繰延税金資産合計	235,753千円	246,870千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△7,958千円	△16,996千円
長期前払費用	△993千円	△6,226千円
その他	一千円	△6,544千円
繰延税金負債合計	△8,952千円	△29,767千円
繰延税金資産の純額	226,801千円	217,102千円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	50,159千円	56,434千円
固定資産－繰延税金資産	176,641千円	160,668千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	1,987円37銭	2,113円03銭
1株当たり当期純利益金額	156円48銭	161円57銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	520,125	534,208
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	520,125	534,208
普通株式の期中平均株式数(株)	3,323,826	3,306,262

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	6,605,551	6,980,794
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	6,605,551	6,980,794
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	3,323,766	3,303,693

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄			株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	大陽日酸株式会社	171,259	109,263
		小池酸素工業株式会社	272,779	60,284
		株式会社ハマイ	63,756	51,897
		株式会社ヤマト	70,000	24,990
		エア・ウォーター株式会社	15,375	20,788
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	72,000	14,328
		株式会社小池メディカル	1,100	3,740
		全日本空輸株式会社	4,000	768
計			670,269	286,059

【債券】

銘柄			券面総額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
投資有価証券	満期保有目的 の債券	株式会社三井住友銀行 社債	200,000	202,682
計			200,000	202,682

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	1,224,400	18,411	768	1,242,044	658,909	41,344	583,134
構築物	43,395	2,358	—	45,753	35,187	1,759	10,566
機械及び装置	283,361	—	—	283,361	258,901	9,931	24,460
車両運搬具	58,078	12,265	—	70,343	56,050	1,379	14,293
工具、器具及び備品	1,898,573	142,615	23,657	2,017,531	1,724,417	112,758	293,114
土地	1,851,903	19,072	—	1,870,975	—	—	1,870,975
リース資産	687,049	119,667	122,779	683,937	357,673	205,266	326,264
建設仮勘定	2,070	—	2,070	—	—	—	—
有形固定資産計	6,048,832	314,390	149,274	6,213,948	3,091,140	372,439	3,122,808
無形固定資産							
のれん	—	1,904	—	1,904	1,904	1,904	—
ソフトウェア	115,144	400	—	115,544	110,912	1,172	4,631
電話加入権	8,795	—	—	8,795	—	—	8,795
リース資産	136,191	—	—	136,191	53,564	26,628	82,627
その他	321	4,000	—	4,321	219	21	4,101
無形固定資産計	260,453	6,304	—	266,758	166,601	29,727	100,156
長期前払費用	11,368	19,089	4,391	26,066	5,936	1,970	20,129

(注1) 当期増加額のうち、主なものは次のとおりであります。

有形固定資産

工具、器具及び備品	医療ガス配管設備	108,884千円
	容器	28,290千円
リース資産	在宅酸素療法用酸素供給装置等	86,396千円
	営業用車両	32,262千円

(注2) リース資産（有形固定資産）の当期減少額はリース期間の満了によるものであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	5,899	2,100	355	3,721	3,922
賞与引当金	71,800	82,000	71,800	—	82,000
役員退職慰労引当金	439,157	1,530	—	2,700	437,987

(注1) 貸倒引当金の当期減少額(その他)の金額は、貸倒実績率に基づく洗替による戻入額であります。

(注2) 役員退職慰労引当金の当期減少額(その他)の金額は、役員の退任に伴う取崩であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

I 資産の部

A 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	14,087
預金	
当座預金	1,620,499
普通預金	641,533
定期預金	2,100,000
別段預金	576
郵便振替	4,930
計	4,367,540
合計	4,381,627

B 受取手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
新池袋商事株式会社	102,690
東邦福島株式会社	10,740
株式会社小池メディカル	9,877
株式会社川崎医療器	6,776
明理会中央総合病院	5,682
その他	44,032
合計	179,797

b 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月満期	53,548
" 5月 "	47,480
" 6月 "	64,197
" 7月 "	7,182
" 8月 "	6,779
" 9月以降満期	608
合計	179,797

C 売掛金

a 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
特定医療法人財団健和会	43,294
新池袋商事株式会社	32,601
医療法人社団ほたか会	26,560
株式会社星エンジニアリング	26,330
株式会社ヤマニ熱工業	24,675
その他	1,069,391
合計	1,222,853

b 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	
1,221,274	7,512,862	7,511,282	1,222,853	86.0	59.3

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

D 商品及び製品

区分	金額(千円)
ガス類	22,638
その他	36,023
合計	58,661

E 未成工事支出金

区分	金額(千円)
外注費	34,400
合計	34,400

F 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
在宅用消耗品	5,302
その他	839
合計	6,142

Ⅱ 負債の部

A 支払手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社星エンジニアリング	143,025
フィリップス・レスピロニクス合同会社	137,241
山陽電子工業株式会社	36,372
新鋭工業株式会社	14,948
キャノンライフケアソリューションズ株式会社	8,485
その他	106,235
合計	446,308

b 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月満期	136,358
〃 5月 〃	101,440
〃 6月 〃	115,048
〃 7月 〃	47,010
〃 8月以降満期	46,450
合計	446,308

B 買掛金

相手先	金額(千円)
株式会社エイ・エム・シー	314,764
株式会社アイ・エム・シー	155,326
株式会社ケイ・エム・シー	103,836
小池酸素工業株式会社	92,514
大陽日酸株式会社	73,556
その他	436,917
合計	1,176,915

C 設備支払手形

a 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社星エンジニアリング	56,050
低温機器販売株式会社	21,735
東京ガスケミカル株式会社	9,240
株式会社セントラル工事関東	4,305
その他	997
合計	92,328

b 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成25年4月満期	773
〃 5月 〃	9,333
〃 6月 〃	11,965
〃 7月 〃	15,970
〃 8月以降満期	54,285
合計	92,328

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告の方法により行う。ただし、やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.hosi.co.jp
株主に対する特典	株主優待制度のご案内 毎年9月30日現在の株主様に対して、銘茶を以下の基準で贈呈いたします。 銘茶 (1,500円相当分)……100株以上 銘茶 (3,000円相当分)……1,000株以上

- (注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 - 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 - 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、確認書

事業年度 第38期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

事業年度 第38期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第39期第1四半期（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月13日関東財務局長に提出

第39期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月13日関東財務局長に提出

第39期第3四半期（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月14日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年6月29日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成24年5月1日 至 平成24年5月31日）平成25年1月7日関東財務局長に提出

(6) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成24年6月29日関東財務局長に提出

事業年度 第38期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

平成24年8月14日関東財務局長に提出

平成24年6月29日提出の有価証券報告書の訂正報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6 月27日

株式会社星医療酸器

取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 芳 幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 哲 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社星医療酸器の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社星医療酸器及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜内部統制監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社星医療酸器の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社星医療酸器が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6 月27日

株式会社星医療酸器

取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 芳 幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 齋 藤 哲 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社星医療酸器の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第39期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社星医療酸器の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【会社名】	株式会社星医療酸器
【英訳名】	HOSI IRYO-SANKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 星 幸男
【最高財務責任者の役職氏名】	該当なし
【本店の所在の場所】	東京都足立区入谷七丁目11番18号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号) 株式会社星医療酸器神奈川事業所 (神奈川県綾瀬市早川字上原2647番地27) 株式会社星医療酸器千葉支店 (千葉県千葉市稲毛区山王町305番地10) 株式会社星医療酸器埼玉営業所 (埼玉県北本市荒井四丁目151) 株式会社星医療酸器名古屋支店 (愛知県小牧市大字舟津1298番地) 株式会社星医療酸器大阪営業所 (大阪府交野市私部西五丁目32番25号) 株式会社星医療酸器尼崎営業所 (兵庫県尼崎市東難波町二丁目1番5号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長星幸男は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」）の財務報告に係る内部統制を整備及び運用する責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して内部統制を整備運用し、当社グループの財務報告における記載内容の適正性を担保するとともに、その信頼性を確保しております。

なお、内部統制は判断の誤り、不注意、複数の担当者による共謀によって有効に機能しなくなる場合や当初想定していなかった組織内外の環境の変化や非定型的な取引等には必ずしも対応しない可能性があり、内部統制が有効に機能しない固有の限界があることから、内部統制の目的を絶対的に保証するものではなく、合理的な範囲で達成しようとするものであります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社代表取締役社長星幸男は、平成25年3月31日を基準日とし、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、評価を実施いたしました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループに含まれる当社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社（6社）を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の売上高の金額が高い拠点から合算していき、連結売上高の概ね2/3に達している2事業拠点を「重要な事業拠点」としました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価対象としました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点も含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加いたしました。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、平成25年3月31日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【会社名】	株式会社星医療酸器
【英訳名】	HOSHI IRYO-SANKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 星 幸 男
【最高財務責任者の役職氏名】	_____
【本店の所在の場所】	東京都足立区入谷七丁目11番18号
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪府大阪市中央区北浜一丁目8番16号) 株式会社星医療酸器神奈川事業所 (神奈川県綾瀬市早川字上原2647番地27) 株式会社星医療酸器千葉支店 (千葉県千葉市稲毛区山王町305番地10) 株式会社星医療酸器埼玉営業所 (埼玉県北本市荒井四丁目151) 株式会社星医療酸器名古屋支店 (愛知県小牧市大字舟津1298番地) 株式会社星医療酸器大阪営業所 (大阪府交野市私部西五丁目32番25号) 株式会社星医療酸器尼崎営業所 (兵庫県尼崎市東難波町二丁目1番5号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長星幸男は、当社の第39期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。